月々６００円　退職時全額返金
総合共済
うれしい給付がいっぱい
結婚 1万円 出産 5千円
結婚記念日　2万円など

泉北教育

NO.2006　2015.5. 25.
発行　泉北教職員組合
〒594-0071　和泉市府中町6-12-2
TEL0725-41-1953 Fax0725-44-6570
E-mail senboku@gf6.so-net.ne.jp

戦争する国づくりの教科書

子どもたちに わたせません

「日本は正義の戦争をやった」子どもらにそう思いこませる教科書

「大東亜戦争はアジアを植民地から解放するという目的ももつ」自由社

「植民地支配からアジアの国々を解放し、大東亜共栄圏を建設することが、戦争の名目」育鵬社

平成28年使用の中学校教科書採択が８月までに各教育委員会でなされます。今回の教科書採択の重大な問題点は自由社と育鵬社の中学校社会科歴史と公民の教科書です。何が問題なのか。歴史教科書の太平洋戦争をどのように記述しているのかを例にみていきます。

１９４１年からはじまる「太平洋戦争」をわざわざ「大東亜戦争（太平洋戦争）」（自由社）、「太平洋戦争（大東亜戦争）」（育鵬社）として題名をつけています。これは、「大東亜戦争」という呼び名が、この戦争の性格を正しく表現していると考えているからです。この戦争の目的を次のように記述しています。「大東亜戦争はアジアを植民地から解放するという目的ももつ」（自由社）、「植民地支配からアジアの国々を解放し、大東亜共栄圏を建設することが、戦争の名目」（育鵬社）。

しかし、日本の戦争目的は、アジアの解放でなどではありません。当時、日本の戦争目的とでした。当時、日本の戦争目的としてもっとも広く宣伝されたスローガンは、「八紘一宇（はっこういちう）」でした。八紘一宇は、“天皇の支配下に世界を統一する”という意味です。アジアから欧米を追い出して、かわって日本が新しい支配者として君臨するというのが、本当の戦争目的でした。このことについてはこの二つの教科書は全くふれていません。都合の悪いことは目を閉ざしているのです。占領した地域では、日本軍はただちにきびしい軍事支配の体制を敷き、住民虐殺などの野蛮な行為を、各地でおこないました。たとえば、シンガポールでは、占領後間もない時期に、華僑系の数万の住民が虐殺されました。その犠牲者を追悼する「血債の塔」が市の中心部に建てられています。

「日本はアジアを解放する正義の戦争をやった」こう子どもたちに思いこませる。「戦争する国づくり」に役立つ人づくりをする。これがこの教科書の役割だといえます。「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」（ヴァイツゼッカー）のです。こんな危ない教科書をこどもたちにわたすわけにはいきません。

→平成28年度から使用の中学校社会の歴史教科書。上は「自由社」、下は「育鵬社」。真珠湾攻撃の写真解説で自由社は「戦艦４隻撃沈、４隻を撃破する大成果をあげた。」とほめたたえ、育鵬社は「空母は不在で損害をあたえられなかった。」と悔しがっています。

組合に加入して子どもと教育をまもろう！